

実施日：9月27日（3校時）	
領 域：教科（技術）	
取組名：情報モラルとネチケット	
対 象：3年生	実施場所：PC 教室、多目的教室
ア ねらい 情報モラルについての学びを深め、情報社会の中で適切に考え判断し行動する力を育てる。またパワーポイントを使った発表を通じて調べたことをまとめ、わかりやすく相手に伝える力、発表する力を育てる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 技術の授業で3年生を9つのグループに分け、情報モラルやネチケットをテーマに授業で学んだことや自分たちで調べたことをパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションをした。1学期末に各グループとも準備は完了した。2学期の授業でプレゼンテーション発表会を実施。 全体6時間 第1次（グループ分け、テーマ決定） 第2次（情報の収集の仕方とパワーポイントの使い方） 第3次（パワーポイントを用いた発表用プレゼンテーションの作成） 第4次（効果的なプレゼンテーションにする方法） 第5次（パワーポイントでアニメーションを設定する） 第6次（パワーポイントを用いたプレゼンテーション発表会）[本時]	
ウ 連携先：校内研修部、道徳	
エ 連携にむけての取組 「表現力の育成」～言語活動と授業改善に焦点を当てて～が校内研修のテーマであるため、グループでの話し合いや意見の交流の場面で、「話し合いの仕方」「まとめ方」「発表の仕方」[別紙②]について共通理解している方法で生徒の考えを深めさせる。またこれまでの「人権」に関わる授業や活動との関連を図り、それらを通じて学んだり考えたりしたことをプレゼンテーションのまとめや発表に生かせるように支援する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 「話し合いの仕方」「まとめ方」「発表の仕方」について教師全体で共通理解を図った方法で生徒を支援する。その中の数グループを全校生徒の前でプレゼンテーションさせる。そして発表を聞いた生徒にも感想を書かせ、学びの広がりを図る。	
カ 評価の方法 「プレゼンテーション」についての自己評価、相互評価をさせる。 生徒の感想[別紙①]	
キ 成果 生徒は、班で協力し合いながら楽しそうに活動しており、「情報モラル」の学習に強い興味と関心をもって学習に取り組んでいる。特にネット社会の危険性やマナー、ルール等についてはさらに学習が深まった。その中で、メールやチャットそしてブログなどで悪口を書くことが良くないことや著作権の侵害が大きな罪になることを学び、相手の立場に立って考え、判断する力が育ってきている。またパワーポイントの使い方についても慣れてきており、体験を通じてわかりやすく相手に伝え発表する方法についての学習を深めた。	
ク 課題 情報社会の危険性や陰の部分を知識では理解していても実際に相手の立場に立って正しく判断し、行動するためにさらに学習を積み重ねる必要がある。また、わかりやすく相手に伝える力や発表する力を生徒に身につけさせるためには、情報をまとめ、聞く人の立場に立って簡潔にわかりやすく説明する発表の場を学校の教育活動全般にわたって与え、それらの体験を通じて育てていくことが重要である。	

3年1組 技術科 学習指導案

- 1 日時 平成25年9月27日(金) 3校時
- 2 場所 コンピューター室
- 3 学級 3年1組 男子19名 女子18名 計37名
- 4 単元目標

- 1) 情報モラルを身につける。
- 2) 情報を安全に利用する方法を知る。
- 3) パワーポイントを用いて、学んだ情報を発信する。

5 単元の指導計画

- 第1次・・・グループ分け、テーマ設定
- 第2次・・・情報の収集の仕方とパワーポイントの使い方
- 第3次・・・パワーポイントを用いて発表用プレゼンテーションの作成
- 第4次・・・効果的なプレゼンテーションにする手法
- 第5次・・・パワーポイントでアニメーションを設定する
- 第6次・・・パワーポイントを用いたプレゼンテーション (本時)

6 本時の学習指導

- 1) 主題
 - ・学んだ情報をまとめ、わかりやすく効果的なプレゼンテーションを作成する。
 - ・インターネットモラルに反することが罪になったり人権侵害になることを知る
- 2) 本時の目標
 - ①自分が作成したシートを用いてプレゼンテーションをする。
 - ②プレゼンテーションの相互評価をする。
 - ③モラルに反することが罪になったり人権侵害になったりすることを知る。
- 3) 人権教育の内容 3- (2) -ア 思いやりの心の育成

生徒の活動の様子



[別紙①]

情報モラル、ネチケット学習における生徒の感想

私は、よくインターネットを利用したり携帯でいろいろなことを調べたりすることがあります。でも今回の授業を通じて「インターネット」の便利さと恐ろしさを知りました。

軽い気持ちでやったことが大きな事件に発展したり、相手にだまされてお金を求められたり……。書き込みなども、自分は軽い気持ちでやったつもりでも相手の気持ちを傷つけるということがよくわかりました。私はこの学習をこれからの生活に生かして、正しい情報を選択し、正しい判断や行動をしていきたいです。

パソコンに書いた悪口は、目に見える形で残ってしまい、消えないということがわかって恐ろしくなった。ネットでの悪口は、人を傷つけたり悲しませたりするので、絶対やってはいけないことだと思うし、自分もやりません。

僕の班は携帯について調べて発表しました。携帯は調べ物をしたり、ゲームやショッピングができて便利だけど、一歩まちがえると大変なことになることを知りました。検索するときは危険なところに行かないように注意しなければいけないことや、画像は著作権の許可が必要だということを学びました。特に危険なところには行かないように注意しながら使おうと思いました。

私の班は、チェーンメールについて調べました。よくよく考えると、人の心の弱さにつけこむところがすごく怖いなあ、と思いました。私は実際にチェーンメールを目にすることが多いので信じないようにしたいし、回さないようにしたいです。

パワーポイントを使って1人1枚のページを作ってみて大切な言葉だけを抜き出すのはすごく難しく、みんなにわかりやすく発表するためにはどうすればよいか考えて苦労しました。同じ班の人に何度も何度も確認や相談をして原稿ができました。

それでも他のうまい班に比べて説明の言葉が多すぎたので、次にプレゼンテーションをするときは大切な言葉だけを抜き出して短く簡潔な説明ができるようにしたいです。

パワーポイントの使い方がわかってきた。文章が長く、説明がわかりにくいと、聞いている人は興味がなさそうにしていました。でも上手な班は違いました。聞いている人に伝えたいことを伝えるには、キーワードをわかりやすく見せること、見ている人がぱっと見て分かりやすいようにグラフや絵を工夫すること、説明の文章を短くして聞く人にわかりやすくする、ということを知りました。

[別紙②]

発表の仕方1

- 1 みんなの方向を向いて、自分の考えを大きな声で最後まで言う。
- 2 自発的に発言する時は、右手を高く上げて「ハイ」といってから起立し、正しい姿勢で発表する。
- 3 指名された時は、「ハイ」と返事をして起立し、正しい姿勢で発表する。
- 4 結論をはっきりと言う。「～は～です」「～は～になります」
- 5 根拠をはっきりと言う。「～は～です。その理由は……」 具体的な証拠をあげて言う。
- 6 他の考えにつなげて言う。「～さんと同じで(違って)～です」
「～さんの意見に付け加えて……」
「～さんの意見には、……という理由で賛成します」
「～さんの意見には、……という理由で反対します」
「～さんの意見で……ということに気づきました」
「～さんの意見をまとめると……だと思います」
- 7 たずねる時の言い方「～さんの意見について質問します」「～さんの考えは……ということですか」
- 8 まわりの反応を確かめながら言う。「……は……ですが、どうでしょうか。」

発表の仕方2 (プレゼンテーション)

1 何も見ない

そのためには、①内容を理解すること、②簡潔にまとめること、③難しい言葉はわかりやすいものに直すことが必要。ただし要点メモ程度ならよい。数字の確認もメモをもとにしてもよい。プリントを配布し文章を読むことはよい。紙芝居のようなものを裏から読むのも可。難しい用語を紹介するときは黒板に書くorカードに書いておいて見せる。

2 何かを見せる

資料を提示すると、聞いている人に具体的にイメージを持たせることができてわかりやすく、また集中させることができる。もちろん何も見せないときも、みんなの方を見ながら、身振り・手振りもまじえて説明すると集中させることができる。

資料提示の方法

写真・図表

スライド、OHP

映写

同時プリント

回覧・掲示

印刷物

配布

ビジュアル・プレゼンター

映写・スライド・OHPも映写可

デジタルカメラ

映写・印刷

映像

ビデオ・パソコン

音声

テープレコーダー・パソコン

文書

プリント、OHP、B紙で掲示

模型・実物

展示、回覧

プレゼンテーションソフト

Power Point

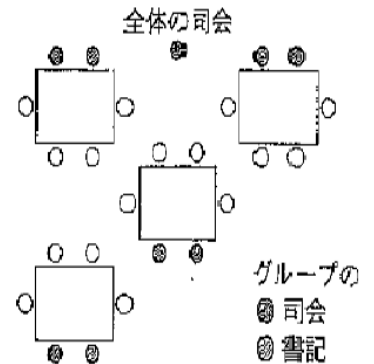
「話し合いの仕方」

話し合いには、いろいろな方法がある。

目的や話し合う人数に合わせて、適切な方法を選ぶ必要がある。

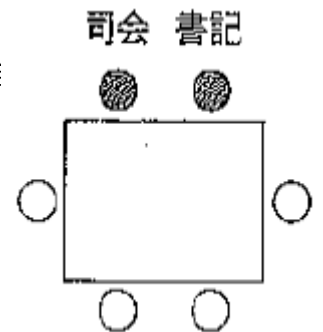
1 バズセッション

- 【目的】 決める
- 【形式】 グループ
- 【特徴】 グループ討議の一つ。四～六名ずつに分かれて課題について話し合い、十全体に報告する。全体で話し合うより意見が出しやすい。
- 【手順】
 - ①グループごとに司会と書記を決める。
 - ②グループ全員が順に意見を述べる。
 - ③グループの代表者が結果を全体に報告する。



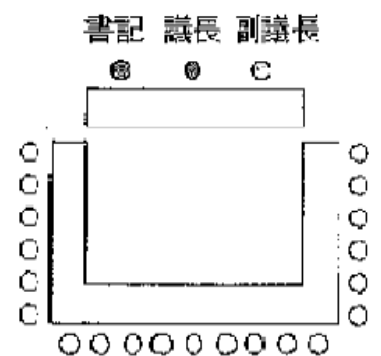
2 ブレーンストーミング

- 【目的】 アイデアを広げる
- 【形式】 グループ
- 【特徴】 五～七名で行う。案をたくさん出すのが目的なので、思いついたことをEいの案を否定しない。
- 【手順】
 - ①司会と書記を決め、議題を確認する。
 - ②参加者は簡潔にアイデアを述べる。全員がなるべく多く提案する。
 - ③提案を種類ごとに整理・分類する。



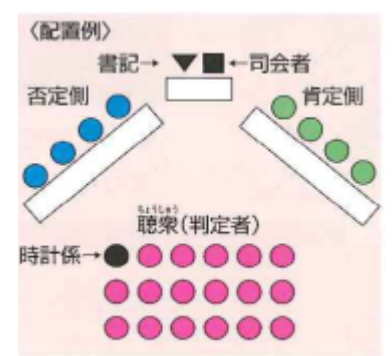
3 会議

- 【目的】 決める
- 【形式】 全体
- 【特徴】 決定や課題解決など、集団としての結論を導く話し合い。何かを決める場合は、採決（多数決）を行う。
- 【手順】
 - ①議長・副議長・書記の選出
 - ②議題提示 提案理由の説明・質疑応答
 - ③議事 賛成・反対、修正案提示
 - ④採決（何かを決定する場合）
 - ⑤決定事項の確認



4 ディベート

- 【目的】 勝敗を決める。
- 【特徴】 一つのテーマ（論題）について、肯定側と否定側の二つの立場に分かれて討論する。最後に判定者が勝敗を判定する。
- 【手順】
 - ①肯定側の主張
 - ②否定側の主張
 - ③チーム内での相談
 - ④否定側の反論・質問



- ⑤肯定側の反論・質問
- ⑥チーム内での相談
- ⑦否定側の主張
- ⑧肯定側の主張
- ⑨判定

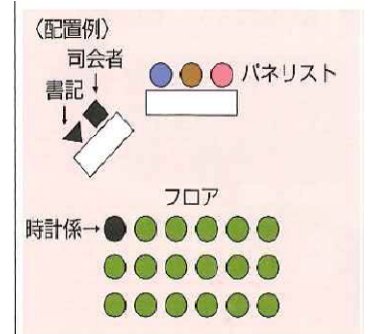
【その他】 判定者は、説得力のある主張をしたほうを勝ちにする。

5 パネル・ディスカッション

【目的】 討論を行う。

【特徴】 一つのテーマ（論題）について、異なる立場の数人の代表者（パネリスト）が討論を行ったあと、聴衆（フロア）も加わって討論を行う。

- 【手順】
- ①パネリストの意見発表
 - ②パネリストどうしの討論
 - ③フロアからの質問や意見・全体討論
 - ④まとめ



(話し合いの注意点)

【司会者】

- ・ 何のための話し合いなのかを告げる。
- ・ 発言するのが特定の人ばかりにならないよう気をつける（一人一回は発言してもらうのが望ましい）。
- ・ 公平な立場で話し合いを進める。
- ・ 話し合いの目的に沿って進行するよう気を配る。
- ・ 発言内容をまとめたり、わかりにくい発言を言いかえたりして確認する。
- ・ なかなか意見が出ない場合は、「〇〇さん、どうですか」というように発言を促す。
- ・ 話し合いで決まったことを述べてまとめをする。
- ・ 引き続き話し合ったほうがいい内容がある場合は、次回の話し合いで議題にすることを告げる。

【発言者】

- ・ 勝手に発言しない（司会者の許可を得てから発言する）。
- ・ 話し合いの目的に沿った発言を心がける。
- ・ 他の発言者の意見や案に反対する場合は、根拠や代案を示す。

【参加者共通】

- ・ 他の参加者の発言を尊重する。発言を途中でさえぎったり、いいかげんな態度で聞いたりしない。